

神の計画のある人生(ルカ 1:57-66)

私たちは神様の恵みにより信者になったのに、説明はできないけれども何か詰まってるような感じ、また晴れることなく何か曇っている感じ、何かもどかしいなあと感じることがしばしばあります。それで信者であるにもかかわらず、自信をもって希望の中を歩くということとは少し離れて人生を歩いている信者が少なくありません。せっかく救われて信者になったのに、なぜそういう状態になってしまうのでしょうか。今日の聖書の箇所を通してそのことを正しく確認して答えをいただきたいと思います。

今日の聖書の箇所には、天使の予告通りにエリサベツが子どもを産むことになりました。それで近所また親族の方々がお祝いにやってきて、特に割礼を受けさせる日になったときには、生まれた子の名前を当たり前にお父さんの名前をもってザカリヤとつけようとしていました。何も問題などありません。普通です。しかし、その母親は「違います。あの子の名前はヨハネとしなければなりません」と言いました。それで皆がおかしいなあと驚きながら「あなたの親族の中にヨハネという名前の人は一人もいないのにどうしたことなのか」と聞きました。それで父親にそれを確認するために尋ねました。今まで父親は信じなかったことでものが言えない状態がずっと続いてきたわけです。それで身振りで「あの生まれた子どもの名前を何にすればいいのか」と尋ねました。すると、書き板を持ってこさせて、そこに「あの子の名前はヨハネ」と答えました。あなたがたが普通に考えているそのような名前ではなくて神様から頂きました。神の理由がある名前なんですよ。そのように書いた途端に口が開けてものが言えるようになりました。今まで閉ざされていたところが開かれることになりました。それでみな驚いて「この子はいったいこれからどうなるんだろう」と言いました。神様の祝福があの子とともにあったということを確認したので「この子はこれからどのような人生を歩いていくんだろう」と期待を込めてみなが驚く内容が今日の聖書に紹介されています。これを通して、信者が曇っている人生ではなくて、本当に晴れ晴れとした光輝く人生、そのような勝利の人生を歩むためにどのような時刻表が求められるのかと言いますと第一です。

1. 自分の人生は「神の計画のある人生」と認める時、真の答えが始まる。

信者、自分の人生は神様の計画のある人生なんだと認めるときに、今までになかった真の答えが始まることになり、曇っている人生が終わり、晴れの人生がスタートすることになります。信者の人生は、ザカリヤと普通に名前をつけるのではなくて、神様が与えられた名前、つまり神の理由、神様の計画がある存在なんだというメッセージなのです。それがヨハネに限られることなく、私たち信者みなにそのような祝福が与えられています。だから私たちはそこら中の人と一緒にこのためにあのために、人生はこういうものなんだといういろいろ考えてきたでしょうけれども、それはもう終わりなのです。信者である以上、自分で自分の人生をこうだああだと決めつけるものではなく、神様の計画があって、神様の理由があってこの世に生まれて救われて残りの生涯を生きることになっている、これこそが信者の祝福であり、特権でもあるわけです。問題は信者であるにもかかわらず、それに気づかないことです。だから教会に通ってお祈りを捧げて、信仰生活のようなものを行っているにもかかわらず、そこら中の普通の人と何も変わらないのです。名ばかりの信者になりかねません。それを今日から切り替えなければなりません。ザカリヤではなくて、あなたはヨハネなんだと。私たちそれぞれに名前があると思います。その名前を今日から消しなさいとか、そういう意味ではありません。親から頂きました名前を無視してはいけません。しかし、私たちは救われた瞬間、神様から与えられた名前があるわけです。神の計画が込められ示されている名前を頂いているものなのです。それに気づくか気づかないかの違いだけです。信者として本当に答えのある勝利の人生をスタートすることができるのか、そうではなく曇っている人生のままずっと続くのかの違いはそこにあるのです。私の人生は神の計画のある聖なるものなんだということに気づいて、それにアーメンして喜ぶかどうかなのです。そのためには私たちの問題、この地球と人生の問題が何かを正しく知らなければなりません。

1) 永遠なる問題、時代の問題、家系(家庭)の問題、個人の問題

世の中の問題、この地球の問題、人々の問題は、みなこれが問題、あれが問題と言ってるような、そういう問題ではありません。誰もわかっていない永遠なる問題があります。誰も解決できない解決不可能な問題

を抱えています。時間がどれほど流れても、世の中が時代がどれほど変わったとしても解決にならない、変わることはない永遠なる問題を抱えていることに気づかなければ、神様の計画に気付くことは難しいです。昔も今もアフリカもアメリカも日本も抱えている問題は、神様を離れてしまったという問題です。結果、悪魔サタンの奴隷になってしまって、罪と呪いの運命に閉じ込められることになりました。これは何がどう変わろうが変わらない、また解決できない永遠なる問題です。この永遠なる問題が、時代時代にさまざまな形をもって現れます。戦争として現れ、さまざまな災難、感染症、貧困等々の問題として現れます。しかし、それが本当の問題ではありません。神様を離れてしまったことが本当の問題です。そして、そのような永遠なる問題が、時代の問題とともに家系を流れて家庭の問題として現れます。それぞれの家系、家系にどのような問題があったのか振り返って確認してみてください。それが単なる問題ではなく、永遠なる問題から生まれるものなのです。そして、それがひとりひとり個人の問題として現れます。霊的なさまざまな症状や精神的ないろいろなプレッシャー、肉体的な病、また家庭が崩壊し、人間関係が崩壊し、経済が破たんしてしまい、さまざまな人生そのものに起きる、それにひびが入ってしまうようなことが起きてしまい、そして必ず一度は死んで、死んだ後はさばかれることになり、このような運命の不幸が三代四代まで終わることなくずっと受け継がれることになります。それが永遠なる問題から生じるものなのです。私たちはそのような問題を抱えて生きるものなのです。皆さんがほんとうに問題が何なのか、どのような問題を抱えてみな生きているのか、私にはどういう問題があるのか、その問題は一体何なのかということのを正しく理解したときに、答えは一つに絞られます。

2) 唯一で完全なる道-キリスト

神様は私たちにはできないのでキリストを送って下さいました。悪魔のしわざを打ち壊す真の王様、人間の罪と呪いを完璧に解決される真の祭司、神を離れてすべての問題が始まったので神様に戻り、神様と一緒にすることができる神様と会える道、真の預言者。この三つの役割をいっぺんに永遠に完璧に成し遂げられる方をキリストと言います。わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとりとして父に会うことはできません。唯一、そして完全なる道はキリストなのです。そのことに気づくことになり、このキリストを救い主として信じて受け入れることになるでしょう。

3) キリストを持つクリスチャン

クリスチャン、信者というのは、この地球の問題、自分の人生の問題、家系の問題、時代の問題の唯一の道であり、唯一の答えであるキリストを持つ存在です。私にあるものをあなたにあげようと。キリスト教は宗教ではありません。修行するところではありません。良い人間になるために通うところではありません。神を離れて完全に死んでいたものが、また神さまと出会って神ご自身がキリストがその人の内側に入って、その人の内側で住まわれるようになること、いのちそのものなのです。これがキリスト教の救いです。皆さんが頑張っただけで自分自身を変えようではなくて、それは不可能なので、神様ご自身がすべてを解決して私たちの内側に入ること古いものは過ぎ去り、すべてが新しく造り変えられることになります。これをいのちと言います。それをクリスチャンと言います。

4) 根本計画 超越計画 個別計画

なので唯一の道、答えであるキリストを持っているクリスチャンには、神様から誰にでも計画が許されるようになりますが、根本的な計画があります。それは言うまでもありません。この地球が今も動いている理由、日が昇って日が沈む理由、今日も死なないで一日命が与えられて生かされている理由は、このキリストが宣べ伝えられるためなのです。神様の根本的な計画は、信者であれば子どもであれ、大人であれ、弱い人間であれ、強い人間であれ、関係なく全員に根本的な計画があります。このキリストを宣べ伝えるための計画をもって私たちを召されました。私たちにはそのような名前がついているのです。王である祭司、伝道者、証人という名前がついているのです。毎日、鏡を見ながら皆さんの名前を復唱してみてください。あいりではなくて証人。キリストの証人。ザカリヤではなくて、ヨハネという名前がついたのと同じように、それに気づいて心から認めると同時に感謝して喜ぶときに、暗闇の力が砕かれて真の答えが始まることになります。その違いだけです。長く教会に通っていて、聖書の知識があるかどうかは関係ありません。ここが神様が私たちに求めていらっしゃるのです。神様は最初からこのような計画を持って召されたので、いつそれに気付くのが問題です。そして、このキリストが宣べ伝えられる計画、この計画は超越して計画なさることです。

超越は何でしょうか。このキリストが私たちを通して地の果てにまで、世界の果てまで、5000 未伝道種族にまで宣べ伝えられる計画のうちに私たちを召されました。子どもを含め、レムナント教会にいま集っている皆さんひとりひとり全員、5000 未伝道種族にキリストを宣べ伝えられる計画の下で召されていることを覚えていてください。キリストを宣べ伝える根本的な計画をもって、しかもすべてを超越して地の果てにまでこのキリストが宣べ伝えられる計画と皆さんとは無関係ではありません。クリスチャンであれば全員、この計画の中で召されました。残念なのはクリスチャンの 99.9%が自分はこのような名前がついてるということを認めないのです。だから口が閉じたままなのです。ものが言えなくなるのです。その状態がずっと続きます。このような計画の中で皆さんひとりひとりに個別の計画があるわけです。「神様、私に対する神の計画は何でしょうか」と問いかけることは大切なのですが、それ以前に根本的な計画、超越の計画、その中に私がいるということをもまず認めて、そのうえで私に対する神の計画は何でしょうか。全員ひとりひとりに神様のご計画があるわけです。何のためにでしょうか。地の果てにまでキリストを宣べ伝えるためにひとりひとりに計画があります。それを見つけるそのときに、それが示されるそのときに、その人の人生は誰も止められない勝利の人生になります。頭が悪いかどうか、今現在、状況がどのような状況なのか、一切関係ありません。むしろ Nothing のような状況が有利かもしれまん。おあかしできる証拠が与えられやすい状況になりますので。いつでもそうでした。初代教会もそうでした。初代教会は本当に人間的に見たときには不可能な状況なのです。何ができるんだろうと思われるそういう状況だったにもかかわらず、彼らはこの神の計画を発見したわけです。それがオリーブ山での出来事です。それさえあれば。それさえあれば。

5) 素直な問いかけ

だから皆さんに求められることは、素直に「神様。私に対するこの計画、根本の計画、超越の計画を感謝します。そのために私に対する神の計画は何でしょうか」と問いかけることです。慌てることもなく問いかけ続けてみてください。その問いかけには神様は必ず答えられます。必ず。この神のご計画に気付かないので、自分自身と自分の人生がどれほど貴重なものなのかに気づかないので、わがままに勝手に生きるわけです。大事にしなければなりません。結論の方で申し上げますけれども、ここがクリスチャンの答え、あるいは曇りの分かれ目になるところなんだということをぜひ覚えてください。難しいことは何もありません。問題は「神の計画は何でしょうか」と聞く以前に、本当に何が問題なのか、キリストのほかには道がないのか、キリストで充分なのか、そこに答えをまだ出していないのです。そういう方々はオリーブ山に行く前にカルバリ山に先に行って、十字架の前で罪にない神の御子イエス様が、なぜ自分のために十字架で死ななければいけないのか。私はどれほど深刻な罪人なのかいうことを確認してみてください。自分の主張などは不可能になります。自分のどうのこうのは一切すべて、自慢も誇りも願いも主張も、場合によってはパリサイ人のように神の栄光という名のもとで自分のことを主張する場合がありますが、神様はだまされません。全部自己中心なのです。自分、自分、自分。十字架の前で自分というものは成り立ちません。自分と言えるようなもののために十字架でキリストが血を流して死なれることなどあるのでしょうか。パウロは言いました。私は十字架とともに死んだと。それでキリスト Only の答えをもって神の計画を問いかけるそのような信者になりましょう。

2. 自分の人生は「神の計画のある人生」と認める時、すべての門が開かれる。

もう一つ。自分の人生は神の計画のある人生だと認めるときに、すべての門が開かれます。ザカリヤの閉じていたその口が開かれたのと同じように、すべての門が開かれます。神の計画に気づいたその時から、もともと私たちのものなのにその門が開かれることになります。

1) 御座の門

つまり、この神の計画を全うするため御座の祝福の門が開かれます。大げさではなくて、この祝福でなければ神の計画は全うできません。私たちが頭を回して腕が良いから、テクニックがあるからできるものではありません。力でも能力もできません。聖霊と力と確信によって。力があなたがたにあるものではなくて、神にあるものだと言われています。御座の祝福の門が開かれます。いつでしょうか。断食の祈りをするときではなくて、私に神の計画があります。その神の計画に気づいたときに、それを素直に認めて心から喜んだそのときに。そして、その計画に従って私の生涯を導いてくださいと祈るときに御座の門が開かれて、状況、条件、皆さんの力、能力と全く関係なく、この計画通りに進むことになります。

2) 霊眼(この世)

そして今まで閉じていた、霞んでいた霊の目が開かれます。つまり、この世がどのようなところなのか、この世に何が必要なのかということが見えてくるようになります。霊の目、霊眼が開かれることとなります。

3) 祈りの門

そして、それと同時に祈りの門が開かれます。その時までには祈りはするでしょうけれども、イエス様が教えられた主の祈りと初代教会の祈りとは全く関係ない祈りなのです。神社の祈りと一緒なのです。神の計画に気づいたときに、初めて祈りの門が開かれて、イエス様がおっしゃった通りに神の国と義を求める祈りを始めることができるようになります。だから当然、答えが与えられることはいうまでもないでしょう。

4) 現場の門

結果、神の計画がそのものなので、現場の門が開かれて、私がいるところからいのちの運動が行われることとなります。どんなところでも構いません。いつでしょうか。私の人生は神の計画のある人生、キリストを宣べ伝える人生です。しかも 5000 未伝道種族にまでキリスト宣べ伝える神の計画の下で、私はこのような神のミッションのゆえに召されたんだと気づいたときに、もう勝負はそこでついてしまいます。そういう人たちはすべてを譲り、すべてを許して超越していくこととなります。どんなことが起きても揺れることなどありません。神様は私たちにそのような人生を用意して導いていらっしゃいます。

5) 神の国のことを信じて期待する

なので、神の計画がある人生なんだということが確認できた信者は、神の国ではなくて、神の国のことがなされることを信じて期待することとなります。つまり、使徒の働き 2 章に起きたことが起きること、自分自身にも現れることを信じて期待して祈ることとなります。言い訳などいりません。どのような現場なのでしょう。今いらっしゃるところが。そこで神様は皆さんに対する神のご計画がどんなものなのかを表してください。これが地の果てにまで必要なんだということを必ず示してください。5000 未伝道種族、文化が違い、経済の程度などさまざまな違いがあるにもかかわらず、そこに必要なのはあなたが今のこの現場で体験した神の国のこと、これが必要なんだよ。フランスにもアメリカにも高級官僚にも下っ端の人間にも神の国のことが必要なんだよ。だから世界が見えてくるようになります。エルサレムのマルコのタラップンだったのに世界が見えてくるようになります。世界に必要な、永遠なる問題に必要な永遠なる答えを体験したのです。いつでしょうか。断食ではなくて、変な祈りではなくて、カルバリ山の祝福を握って私の人生に神の計画がありますと気づいたとき、その時なのです。皆さんぜひ、このような祝福が用意されていることを信じてみことばを黙想し、ぜひ気づくようになることを祈りたいと思います。

そのために改めて静かな時をもって、長年信仰生活したのか、今信じたばかりなのか、子どもなのか、年配の方なのか、そういうことにかまわないでください。昨日、土曜の集いで祈り会を始めました。レムナントのために、大人のために、親のために。レムナントの親がレムナントがよく成長することを願うのは普通に当たり前でしょうけれども、その前に親の大人がしっかりこのように恵まれればその影響がいくようになります。だから子どもに目が行く前に、自分自身に目が行かないといけません。知らず知らず長い間、その家庭、家系に染み込んでいる、根を下しているこの世の力、肉の力、律法の力、心の傷の力などに根を下ろして、そこからすべてが生まれるわけです。クリスチャンで 30 年、40 年になっているのにもかかわらず、それがキリストの御名によって根こそぎ放り出されて、Only キリスト、お Only 神の国、Only 聖霊の完成された契約の中で新しく始められるように、素直に正直に新しく始められるように、私はキリストをよくわかりませんでしたからスタートするように。それでレムナントの土台となるような上から与えられる平安の主人公になるように、まず親、大人が癒されますように。癒されるというのは気持ちの問題ではありません。長い間築かれていたサタンのやぐらが砕かれることなのです。それで神の計画に目覚めるように。

そのために静かな時をもって素直に正直に問いかけてみてください。「イエス様は誰なのか」。イエス様は誰なのでしょう。誰だから皆さんはイエス様を信じているのでしょうか。別に信じなくてもいいのではないのでしょうか。真剣に問いかけてみてください。そして、「キリストであるイエス様を信じている自分は誰

なのか」を問いかけてみてください。もちろん、この問いかけに対して自分勝手に答えを出そうとしないで、みことばを通してその答えを見つけようようにしましょう。それで自分は誰なのかという答えが出たときに、「ならば私は何のために生きるのか」と聞いてみてください。何のために生きるのか。それから、その答えがわかったときに「私はそのために何をすべきなのか。何をすればいいのか」と問いかけ続けましょう。

その答えが出たときに、信者の自分自身、また自分の人生が普通のものではなくて、ザカリヤではなくて、ヨハネ、つまり聖なるものということを認めることとなります。神の計画のある人生というものは、同じ人生を歩いているかのように思われるでしょうが違うのです。聖別されているから聖なるものなのです。皆さん自分自身と皆さんの人生そのものが聖なるものなので感謝しましょう。地獄に行くしかなかった私と私の汚れた人生を全部ひっくり返して聖なるものにしてくださいました。それを感謝しましょう。その感謝のゆえに自分自身と自分の人生を愛し大事にしていくクリスチャンになりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。いまでも約束通りに信じる私たちにみことばを通して聖霊の豊かな働きを成していらっしゃることを信じます。今日のみことばがひとりひとりの内側で運動になり、内側から変えられて癒されて今までにあったさまざまなものを全部取っ払って、自分の人生は神のものであり、神のご計画があるものと気づいて認めて、それを発見することができるようにひとりひとりを祝福してください。それでキリストを待っている 5000 未伝道種族、47 都道府県、現場にキリストを宣べ伝える主人公としてひとりひとりが用いられることを心からお祈りいたします。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。